

デザインに関する 3 題話

かって現役時代に、設計またはデザインの仕事をした経験した人には関心があることと思いますが、2, 3 デザインに関係する最近の話題を提供したいと思います。最初に宮崎 駿監督「風立ちぬ」を観て、ゼロ戦の誕生当時の様子を垣間見て楽しいひと時を過ごしましたが、その中で「デザインはセンス」との台詞が印象に残っています。中心は、**美しい飛行機をデザインする**話ですが、種々の画期的な技術革新が行われていたようです。映画では平らなリベットで空気抵抗を減らす試みやジュラルミンの使用などが取り上げられていました。後で所有している著書“堀越二郎・奥村正武共著「零戦」堀越二郎・奥村正武 共著 新装改訂版 1975 年発行 朝日ソノラマ”を眺めてみて詳細な背景を理解することができました。複葉機から単葉機へ、外国類似機との性能比較、商業ベースでは良い製品が作れないので輸出には仕様変更が必要なことなど、詳細は A6M1 計画説明書 p.111-117 に記載されています。

デザインに関連して、もう一つ「仕事をデザインする」という表現を最近発行の“大島祥誉著 マッキンゼー流入者 1 年目問題解決の教科書”の中に見つけました。プロジェクトで行われる仕事について思考の 4P (Purpose, Position, Perspective, Period) が大切としています。装置、企業組織など様々なシステムの仕事にはこれらが重要であることは言うまでもないことですが、日常生活においても「デザイン」という行為が知らず知らずのうちにに行われていると考えられます。主婦の毎日の仕事などはその典型で、今日の夕飯は何にしようかと思いつくことから献立を考えることはデザインそのものと言えると思います。デザインといえば、毎シーズンに世界で行われるファッションショーは、美しい衣装を提案していることはご存知の通りで、形などで評価できるデザインは、わかりやすいものと言えます。先ほどの美しい飛行機も性能などは当然のこととして最適なものを追求しながら美しい形を求めているはずで

ところで、形として見えないものをデザインする行為では、どうなっているのでしょうか。

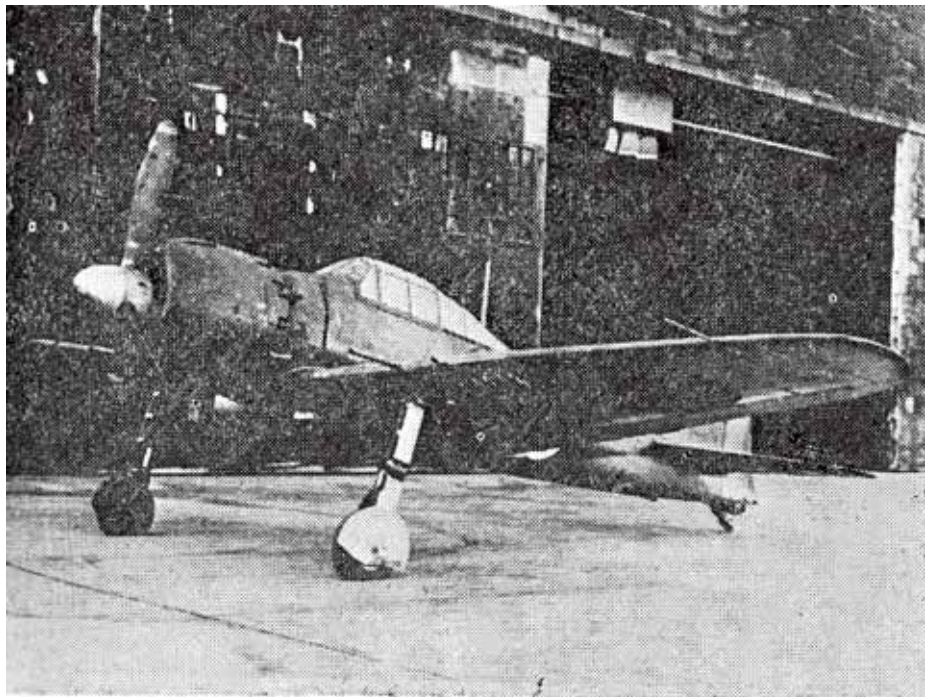
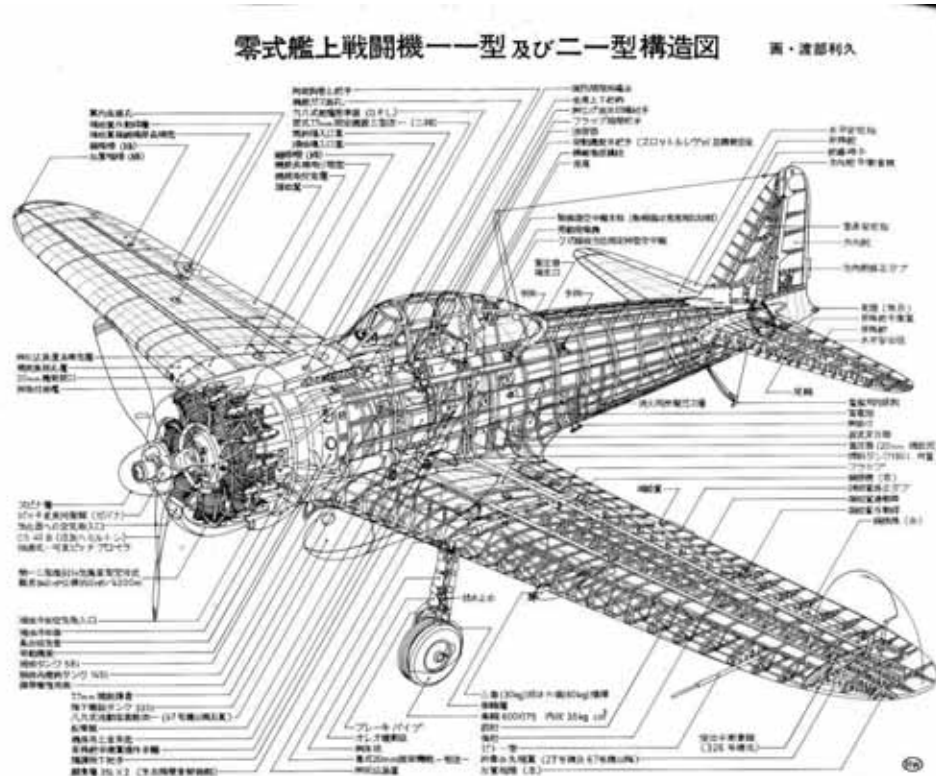
論文の形で新たな概念を提案するときなど、美しさを考えることはないと思います。私の経験では、種々の論文発表の後、過去を振り返って、特定の概念に対して、美しい内容になっていると自負することはあると思います。もちろん主観的なことで、客観的な評価とは別問題です。それほど多くはない私の研究成果で、シンプルな概念で発展性があり、基本がしっかりしているのは、**エクセルギーに基づく省エネルギー型システム合成**に関するもので、質に応じた仕事の配分などへの適用も可能で、最近の発表に繋がっています。これなどは個人的には美しい概念としてかなり本質的な部分を追求したものであると考えています。最初の研究段階ではこのようなことは予期もしなかったもので、デザインで美しさを求めることは、やはり結果が見える形になることに限定されるかもしれません。

思いつくまま、デザインについて書いて見ました。話題提供になっていれば幸いです。

2013/9/15

梅田富雄 (化工会)

(参考) “堀越二郎・奥村正武共著「零戦」堀越二郎・奥村正武 共著 新装改訂版 1975年発行 朝日ソノラマ”より



零式艦上戦闘機五二型